

茗溪学園中学校高等学校

Study Skills を実につけさせる教育 その 12 全人教育 : 部活動と中体連

教務部長 田代 淳一

アメリカのアイビーリーグなどの有名大学に毎年一定数の進学者を出すような米国の私立伝統校では、優秀な生徒が課外活動もせずに勉強ばかりしていると「そんなことでは良い大学に進学できない。スポーツや芸術をして、人間の幅を広げなさい。」とアドバイスされるそうです。オックスブリッジに多くの卒業生が進学するイギリスの私立の伝統校、パブリックスクールでもスポーツが奨励されています。

日本でも戦前の旧制高校ではスポーツや文学芸術に対する独特の許容力があつたと聞きます。洋の東西を問わず、現代の高度で複雑な民主社会で価値ある仕事をしていく場合、専門知識の深さだけでなく人間性の幅の広さが必要なのはいうまでもありません。そして、そのような幅は往々にして中学高校時代の部活動などの活動を通じて身につけていく場合が多いのではないのでしょうか。

自分のこどもに知育だけではなく豊かなスポーツ活動を経験させたいと考えて中学校を選ぶ場合、保護者が意外と注目しない観点が“中学校体育連盟に加盟しているかどうか”です。

中学校体育連盟（略称「中体連」）がたとえばその種目の関東大会や全国大会（略称「全中」）を開催しますので、加盟していない場合はこのような公認試合に参加できないこと

になります。もちろん、公立中学校はすべて加盟しています。ところが意外と私立中学校で加盟している学校が少ない（少なかった）のです。

実は中体連に加盟するといろいろ大変なことがあります。まず、大会等の日程に自校の学校行事を合わせなければなりません。公立中学校にとって中体連の大会は大事な公認試合ですから、十分準備・調整して臨みます。事前の会議も何回も行い、公平で公正な運営になるように最善を尽くします。そこに参加するわけですから、私立中学校側も同様の努力と協力をする必要があります。調整会議にも参加し、決められたルールに従って参加します。たとえば地区予選で勝ちあがったあとに学校行事で本選を辞退するようなことは許されることはありません。そこで、中体連に加盟した私立中学校は、参加種目の数だけの調整会議や試合への引率に教員を割くことになります。強い部になると市大会、地区大会、県大会、地方大会、全国大会と続きますし、年間には夏前から始まる総合体育大会（略称「総体」）と秋の新人体育大会（略称：新人戦）の2回ありますので、実は膨大なエネルギーをこのために費やすことになります。

高校になると大抵の公立校私立校ともに高等学校体育連盟（略称「高体連」）に加盟しますから、こちらの方の調整会議や引率も膨大な数に上ります。ということは、中高一貫校で中学で中体連、高校で高体連に加盟していて運動部活動の盛んな学校はものすごい状況になっているということです。大会等で活躍する部にするためには、当然日常の練習が充実していなければなりませんし、練習試合等に積極的に参加して子どもたちに試合経験を積ませる必要があります。そのような練習試合の日程は当然日曜休日になりますから、運動部の顧問はシーズン中は休日を返上して指導にあたることになります。

実は、一口に「文武両道です」と宣言し、本当にそれを中学校段階から実現させようとする、このように筆舌に尽くし難い努力が学校全体で必要なのです。この、必要なエネルギーがあまりに大き過ぎることに価値観を感じない私立中学校は中体連には加盟しない選択をします。中高一貫校でも、

